

学校へのBLS教育導入に関する検討委員会 学校BLS教育導入についての普及に関する小委員会

委員長 石見 拓
普及小委員会委員長 漢那朝雄
担当理事 田中秀治

報告期間：平成24年4月1日～平成25年3月31日

委員他活動メンバー：別紙

活動の概要

平成20年4月に設立された本委員会は、学校における心肺蘇生教育の普及を目標として、当学会員以外の医療職、教育関係者や心肺蘇生の普及団体等などとも幅広く連携しながら、実際に児童生徒に対して心肺蘇生の実技を伴う授業を行いつつ、学校におけるBLS教育の実践的かつ具体的方策を検討してきた。日本版救急蘇生ガイドライン2010(以下G2010)において、学校における心肺蘇生教育の普及の必要性が言及されたことは、本委員会の取り組みが評価されたものともいえる。

平成24年4月10日に『全ての子供たちが実技を伴う心肺蘇生の教育を受けることができる環境を整えること』を目標に、学校での心肺蘇生教育の導入・普及について、心肺蘇生普及に関わる各種団体に呼び掛け、共同で、文部科学省への政策提言を行った。

平成24年度は、これまで行ってきた児童生徒対象のCPR講習のデモ(授業展開例示)の実施継続に加え、指導対象研修会内容の確立とデモの実施および学校における心肺蘇生の実技を伴う講習を具体化するための方策についての検討、情報共有をすすめることを活動目標とした。

第15回総会(熊本)、日本救急看護学会(2012 11/2-3 東京)、第37回全国学校安全教育研究大会(2013 2/15 東京)において『児童に対するBLS模擬授業』、第15回総会においては併せて教員への指導者養成講習会を行った。ご参加いただいた学会員の皆様、学校教諭には、子供たちにBLS教育を行うことの意義と同時に、学校へのBLS教育展開の可能性を感じていただけたのではないかと思います。

また、日本救急医療財団との連携し、非医療従事者に対するAED普及啓発シンポジウムにおいて、学校内における心肺蘇生教育普及をテーマとした議論を実施した。

教育関係者はじめ、ご協力いただいた皆様にこの場を借りて感謝したい。

平成 24 年度の主な取り組み

1. 心肺蘇生普及に関わる各種団体に呼び掛け、共同で、文部科学省への政策提言『全ての子供たちが実技を伴う心肺蘇生の教育を受けることができる環境を整えること』を目標（平成 24 年 4 月 10 日）
2. 第 15 回総会（熊本）にて、ワークショップを開催。『児童対象の CPR 模擬授業』に加えて、『教員対象の模擬指導者養成講習会』を展示するとともに全国各地での学校における BLS 教育の先進的取り組みの紹介
3. 心肺蘇生普及に関わる学会、教育関係者の集まる場での指導者養成講習会の模擬展示と意見交換
 - ① 日本救急看護学会(2012 11/3 東京)
 - ② 第 37 回全国学校安全教育研究大会(2013 2/15 東京)
 - ③ 日本救急医療財団との連携
非医療従事者に対する AED 普及啓発シンポジウムにおける学校内における心肺蘇生教育普及をテーマとした議論の実施
4. 学会 HP の更新

※活動の詳細については、学会ホームページ（http://jsem.umin.ac.jp/about/school_bls.html）参照

平成 24 年度委員会開催状況および関連活動

第 1 回小委員会 平成 24 年 5 月 21 日 web 会議

- 1) 第 15 回日本臨床救急医学会総会（熊本：6 月 16 日）にて、ワークショップの準備について
- 2) 本年度小委員会活動に関連する事前調整
平成24年 1 月（23年度）の親委員会で計画として示した他学会総会での共催ワークショップ開催について、各学会事務局への協力要請

第 2 回小委員会 平成 24 年 6 月 16 日

- 1) 平成 24 年度活動計画について内容を確認。
- 2) 第 15 回総会におけるワークショップの進行について。
- 3) これまでの活動の整理について（活動記録の整備とテキスト化の検討）
理事会への報告書提示

第 15 回日本臨床救急医学会総会におけるワークショップ開催（熊本：6 月 16 日）

同総会では、木下学会長の計らいにより開催が可能となった。全国各地での学校における CPR 教育に関連する参考となりうる取り組みの紹介の後に、小学生を対象とした 45 分程度の模擬授業および指導者研修会（教諭自らが児童に教えられることを目的）のモデル展示を行った。参加した学会員に学校 BLS 教育の現状や将来的な展望を一部ご理解いただけたものと考えられた。

1. 学校へのBLS教育導入検討委員会 これまでの活動概要

京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター 石見 拓

2. 今、我々にできること。各地での様々な取り組み

- ・発達段階に応じた教育の実践 ～息や脈を感じてみよう～

金沢大学 太田 邦雄

- ・東京都における学校CPR教育の現状と方向性

東京消防庁 滝澤 秀行

- ・被災経験を踏まえ、学校でのCPR教育実績を活かした防災教育と連動した取り組みについて

仙台市消防局 吉川 清志

- ・教職員インストラクター養成にかかる熊本市の取り組み

熊本市消防局 蟹江 礼一朗

- ・学校での指導を意識した日本赤十字社の新しい教育プログラム

日本赤十字社事業局 安藤 史明

3. 「学校における心肺蘇生授業例」

4. 指導者研修会のモデル展示

(概要紹介10分＋モデル研修会50分 (研修会の受講対象者：学会参加者))

5. 学校へのBLS教育導入検討委員会 今後の活動の方向性

九州大学 漢那 朝雄

なお、上記プログラム3、4のデモについては、熊本市託麻原小学校児童（4-6年生）の皆さん、同 山下 英一校長先生、同 PTA 会長 大石浩文様、ならびに熊本市教育委員会のご理解および、熊本市消防局 西岡和男氏、熊本日々新聞社 伴 哲司氏の献身的なご尽力のもとで開催可能となった。同委員会・小委員会として各位に深謝したい。

第2回小委員会 平成24年8月21日 web会議

1) 学校安全学会でのデモについて

正式決定時期についてのアナウンス、指導者研修会教モデル授業実施について

2) 日本臨床救急看護学会 11/3 9:40-11:40 でのデモについて

3) アンケート結果

4) 熊本市消防局西岡氏に本委員会のオブザーバー就任要請について

学会の委員会規約など確認

第14回 日本救急看護学会総会におけるワークショップの開催

日本救急看護学会総会（東京：平成23年11月3日）にてワークショップ『学校でのBLS教育普及に向けて、今、できること』を当学会との共催のかたちで開催した。概要は下記の通り。

座長 札幌市立看護大学 菅原 美樹、京都大学 健康科学センター 石見 拓

1. 日本臨床救急医学会学校へのBLS教育導入検討委員会 これまでの活動概要

漢那小委員長

2. 「小学生に対する心肺蘇生授業例」モデル授業講師 村上委員

3. 今、我々にできること。各地での様々な取り組み

学校におけるリスク管理モデルの提案

～なぜ学校のAEDは使われなかったのか？明日香の悲劇を繰り返さないために～

埼玉県総合リハビリテーションセンター 桐田 寿子

看護師が社会に向けた取り組みを進める意義。「親子救命教室」を実践して感じたこと。

徳島市民病院 猪子 美由紀

今回の発表者の猪子氏は前年度の日本救急看護学会総会におけるワークショップ参加を契機に、学校などでの心肺蘇生普及活動に熱心に行うようになったとのことで他学会との協働の重要性が示された。また、娘さんが学校で突然死された桐田氏の発表では、以降の悲劇を繰り返さないようになされた、さいたま市教育委員会の取り組みについて紹介がなされた。

モデル授業については、児童の反応、参加してくれた学会員の反応から、概ね首尾よくいったものと判断された。

第3回小委員会 平成24年11月3日（東京）

- 1) 当学会理事会における当委員会の活動報告
田中理事より、平成24年度の小委員会の活動について理事会で報告したことおよび理事会が当委員会・小委員会での活動を高く評価されたとの報告あり。
- 2) 委員会活動の報告、学会ホームページ内容更新について
現在の本委員会の学会HPの記載内容の更新の確認について
- 3) 委員会の今後の活動スケジュールについて
第37回全国学校安全教育研究大会のモデル授業の準備について
- 4) 次回日本臨床救急医学会総会・学術集会に向けて（追加活動目標）
 - ・これまでの活動はBLSのやり方およびその指導法に関するもの
その内容の見直し、強調ポイントの再確認（死戦期呼吸のさらなる強調など）
 - ・学校における防ぎえた突然死(preventable school death)の検討の開始
インシデントレポートのように次のトラブルを防ぐために皆で症例から学ぶ。
ことを主旨とする
独立行政法人日本スポーツ振興センターの学校における突然死のデータの利用（可能かの問い合わせ）あるいは学校での死亡例等を収集、分析し、改善策を提案していく。
 - ・本件に関しては小児関連の学会等との協働も検討していく。
 - ・学校におけるAEDの設置基準あるいは、設置運用にかかわる工夫についてのアドバイスの実施。
- 5) その他
 - ・日本救急看護学会（小委員会と同日に開催）における振り返り

第 37 回全国学校安全教育研究大会におけるデモ実施 平成 25 年 2 月 15 日東京

矢萩前委員および第 37 回全国学校安全教育研究大会大会長の矢崎良明先生、主幹校の金竜小学校をはじめとした学校関係者のご協力のもと、全国の安全担当の小学校教諭の情報交換の場である上記研究大会にて、BLS 講習デモを行った。現役の小学校教諭によるデモ授業実施を行うべく、指導者研修会のデモを実施（平成 24 年 12 月 20 日）するなど準備をすすめていたが、先方の要望により、大会直前に急遽、現職の教諭ではなく、石見委員が行うことになったのはある意味残念であるが、多くの大会参加者にご見学いただき、きちんとした指導プログラムがあれば、授業の枠内で、児童たちを対象に BLS の実技を含む指導を実施可能である事を提示できたものと考えられる。

金竜小学校 5 年 1 組の皆さん、担任の俣野先生のご協力に深謝します。

第 4 回小委員会 平成 25 年 2 月 15 日（東京）

1. H24 年度小委員会活動報告（漢那委員長）

第 1 回小委員会（6 月）に提示した今年度の活動目標の実施状況などを報告

- ・今年度の目標
- ・平成 24 年度 CPR モデル授業および指導者研修会のデモ実施状況

日本臨床救急医学会（2012/6/16-17 熊本）で WS

医学生による CPR モデル授業（対象：児童）、指導者講習会を実施

日本救急看護医学会（2012/11/2-3 東京）で WS、モデル授業

看護師による CPR デモ授業提示（対象：児童）

全国学校安全教育研究大会（2013/2/15 東京）でモデル授業提示

医師によるデモ授業。（担任の先生による授業の予定であったが、教師側の要請で急遽石見委員へ変更）

参加者へのプレゼンテーション（10 分）

＊当初モデル授業開催を計画していた日本救急医学会、全国救急隊員シンポジウムでは調整不足などの原因で実施できず。

- ・本委員会・小委員会が実施した関連活動

日本救急医療財団「非医療従事者に対する AED 普及啓発シンポジウム」

第 3 回 さいたま市（2012/8/18） 第 4 回 福岡市（2013/3/2）において

「AED を含めた心肺蘇生教育を学校内で普及するためには」

「AED を含む心肺蘇生教育を学校内で普及するために」などがテーマとして採用。

漢那委員長、石見委員、松見委員、高橋委員、加藤委員、田中理事が当委員会の活動などを紹介

- ・前回委員会で確認した今年度の活動

政策提言の具体化（詳細は未検討）

学会への報告、学会誌への報告（短報形式）

これまでの成果のホームページへの掲載

- ・日本臨床救急医学会の本委員会ホームページについて

修正が必要→費用がかからない範囲で随時新規情報を更新していく

ダウンロード可能な資料の整理、ホームページへのアップロードが大至急

1～2ヶ月以内に発信された情報については「new」などつけて分かりやすく。

これまでの小委員会の活動をホームページへ記録することを提案。

→視察や各種学会での活動について

ホームページの更新指示を誰が行うのか？

→小委員会の役割

→漢那委員長金子委員が中心となり、ホームページのチェックを行う

第1回委員会 平成25年3月12日（東京）

- 1) 平成24年度 小委員会活動報告（漢那 小委員長）

平成24年度の小委員会の活動について

日本臨床救急医学会でのワークショップ

日本救急看護学会での公開授業

全国学校安全教育研究大会での委員会活動の広報活動

- 2) 日本救急医療財団 非医療従事者による AED 使用のあり方特別委員会

教育普及ワーキンググループとの連携について（石見 委員長）

政策提言の具体化（指導者養成の実践、展開の具体化等）

学会への報告（短報形式）

- 3) 平成24年度活動報告と平成25年度計画について

平成24年度の活動報告

今年度の活動目標（次年度以降も継続すべき内容）

BLS のやり方およびその指導ポイントの再確認

学校における心停止例の社会復帰率を向上させる方法（CPR 教育プログラム以外）の検討

学校における AED の設置基準などの施策 など

学校における心停止例の医学的な検討の実施

個々の症例に対して具体的なフィードバックができるような施策の提案

平成25年度の活動計画

教員対象の指導者研修会の「実践」にむけた環境整備

① 内容・資料等の周知方法の確立（学会 HP の活用／救急医療財団との連携）

- ② 学会等での活動紹介・協同の呼びかけ
- ③ 当委員会主催のモデル研修会（模擬授業＋指導者研修会）および意見交換会の開催
- ④ 指導者養成研修会のオーソライズ方法の検討
- ⑤ 指導者研修会の提供者の養成／提供機関作り

第 16 回総会（東京）におけるワークショップ開催

関連学会、教育関係者の集まる場での活動紹介と意見交換

- ① 日本救急看護学会(2013 10/19-20 福岡)
- ② 日本救急医学会？(2013 10/21-23 東京)
- ③ 第 22 回 全国救急隊員シンポジウム (2014 1/30-31 福岡)
- ④ 第 38 回全国学校安全教育研究大会 (2014 2 月)

等を念頭に準備を進める

文部科学省への政策提言を具体化するための方策についての検討

普及・研究調査の継続と学会誌等での報告

これまでの活動成果の取りまとめ。報告集の作成。

今後継続審議すべき下記の事項が示された。

教師が BLS を指導することに関し、指導者の質の保証という観点から、学会が一定のレベルを満たした教員に対し、認定する制度の新設。

関連活動 その他

日本救急医療財団との連携

同財団の主催する非医療従事者に対する AED 普及啓発シンポジウム、第 3 回さいたま市 (2012 8/18) 第 4 回 福岡市 (2013 3/2) において、それぞれ、「AED を含めた心肺蘇生教育を学校内で普及するためには」「AED を含む心肺蘇生教育を学校内で普及するために」などがテーマとして採用された。田中理事、石見委員長、小委員会委員（漢那、松見、高橋、加藤）が当委員会/小委員会の活動紹介、関連内容を発表した。

以上

報告者 石見 拓、漢那朝雄、田中秀治

日本臨床救急医学会 学校へのBLS教育導入委員会委員
および活動にご協力いただいている皆様

平成 24 年度 (所属は平成 25 年現在の所属)

【日本臨床救急医学会 学校へのBLS教育導入検討委員会】

<担当理事>

たなか ひではる
田中 秀治 国士舘大学大学院スポーツ医科学科

<委員長>

いわみ たく
石見 拓 京都大学環境安全保健機構健康科学センター

<委員>

ぼだいじ ひろし
菩提寺 浩 札幌市消防局警防部救急課長
かとう けいいち
加藤 啓一 日本赤十字社医療センター麻酔科
かん な ともお
漢那 朝雄 九州大学大学院 医学研究院災害救急医学
こみね つとむ
小峯 力 中央大学 生命・健康科学研究室 (日本ライフセービング協会理事長)
たきざわ ひでゆき
瀧澤 秀行 東京消防庁救急部救急指導課救急普及係 (東京救急協会)
はが きとし
芳賀 敏 (平成 24 年 6 月委員交代)
はやしだ すみと
林田 純人 大阪市消防局警防部救急課 担当係長 (救急)
まつみ ひでゆき
松見 秀之 松見歯科医院
むらかみ かおり
村上 香織 近畿大学医学部附属病院

<委員(書記)>

たかはし ひろゆき
高橋 宏幸 国士舘大学大学院スポーツ医科学科 (ハートセーバージャパン)

<オブザーバー>

いしだ よしみ
石田 悦美 総務省消防庁 救急企画室 救急推進係長
わたべ かずや
渡部 和也 総務省消防庁 救急企画室 総務事務官
きとう ひろき
佐藤 浩樹 文部科学省 スポーツ・青少年局学校健康教育課
あんどう ふみあき
安藤 史明 日本赤十字社事業局救護・福祉部健康安全課
のぐち えいいち
野口 英一 公益財団法人 東京防災救急協会常務理事

【学校へのBLS教育導入についての普及に関する小委員会】

<委員長>

かん な	とも お	
漢那	朝雄	九州大学大学院 医学研究院災害救急医学

<委員>

いわみ	たく	
石見	拓	京都大学環境安全保健機構健康科学センター (NPO 大阪ライフサポート協会)
おおた	くにお	
太田	邦雄	金沢大学附属病院小児科
かとう	けいいち	
加藤	啓一	日本赤十字社医療センター麻酔科
かねこ	ひろし	
金子	洋	名古屋市消防局中消防署
な ち	しょう	
名知	祥	岐阜大学医学部附属病院高度救命救急センター
まつみ	ひでゆき	
松見	秀之	松見歯科医院
よねざわ	たかひろ	
米沢	隆宏	豊中市消防本部救急課

<委員(書記)>

たかはし	ひろゆき	
高橋	宏幸	国士舘大学大学院スポーツ医科学科 (ハートセーバージャパン)